

単 元 名	鉄棒運動	配当時間	7時間
単元の目標	(1) 互いに励まし合って鉄棒運動をしたり，器械・器具の使用の仕方を工夫して安全に運動をしたりしようとする。 (2) 自己の能力に適した技に取り組み，その技ができるようにするための活動を工夫することができる。 (3) 上がり技・支持回転技・下り技の中から，自己の能力に適した技を選び，それらの技に取り組んだり，ある程度正確にできるようにしたりするとともに，上がり技，支持回転技，下り技を組み合わせることができる。		
単元を構想する上での留意点	児童は3年生までの「器械・器具を使つての運動」の中で，いろいろな動きを作ったり新しい動きに挑戦したりして，鉄棒を使つての運動を経験してきている。しかし，自分の能力に合っためあてをもったり，練習の仕方を工夫したりする力は十分ではない。 そこで本単元では，前半は支持回転技を中心とした単技を練習する段階，後半は上がり技と下り技を練習して連続技作りにつなげる段階に分けて学習を進める。そして，それぞれのステップに応じた場を設置し，自分の能力に合っためあての持ち方や練習方法などについての理解を図る。		
単元展開例			
準 備	鉄棒用補助具（タオル，逆上がり用ベルト，膝当て用サポーター，踏み切り板など），マット，学習カード，ビデオ，技の連続図 など		
学 習 活 動		留 意 事 項 な ど	
1 鉄棒運動の学習のねらいと内容を理解し，学習の仕方について見通しをもつ。 ○学習のねらいや進め方を知る。 上がる技・回る技・下りる技に挑戦したり，技をつないだりして鉄棒運動を楽しもう ○学習カードの使い方を知る。 ○マナーや安全な運動の仕方について知る。 ○グループを編成する。 ○鉄棒運動に関連した体ほぐしの運動をする。 ○試しの運動をし，めあてをつかむ。 ・上がり技の例 膝かけ振り上がり 逆上がり など ・支持回転技の例 だるま回り 前方（後方）膝かけ回転 前方（後方）支持回転 など ・下り技の例 前回り下り 踏み越し下り など		・ビデオや示範，学習カードなどで，技の種類や組み合わせ方を紹介し，学習意欲を高める。 ・技のポイントや練習方法などを例示しておく。 ・2人1組で1グループを作る。 ・易しい遊びやゲームなどを取り入れ，腕支持感覚や逆さ感覚を体験させる。 ・上がり技，支持回転技，下り技についてそれぞれできる技をお互いに確認させ，学習カードに記入させる。	
2～4 支持回転技を中心とした単技の練習をする。 ○体ほぐしの運動をする。 ○自分のめあてとする支持回転技のポイントを知り練習方法を確認する。 ○今できる力で支持回転技を楽しむ。（めあて1） ○少し努力すればできそうな支持回転技の練習をする。（めあて2） ・補助者を付けて ・補助具を付けて ○反省し，まとめをする。		・前回り下り，足抜き回り，こうもり振りなどを時間を決めて数を競ったり，リレーをしたりして楽しく行わせる。 ・自分から進んで取り組めるように，学習カード，連続図など用意し，学習環境を整える。 ・学習カードに示されているステップが，できているか助言する。 ・2人で互いに教え合って活動させる。	
		自分自身に合っためあてをもって練習する活	

・できばえ ・態度 ・次時のめあて など 5～6 支持回転技に上がり技，下り技をつなげて連続技を作る。 ○体ほぐしの運動をする。 ○今できる力で上がり技，下り技を楽しむ。 (めあて1) ○少し努力すればできそうな上がり技，下り技の練習をする。(めあて2) ・補助者を付けて ・補助具を付けて ・支持回転技につなげて ○学習のまとめをする。 ・できばえ ・態度 ・次時のめあて など 7 発表会をする。 ○体ほぐしの運動をする ○演技種目の練習をする。 ○発表会をする。 ○単元のまとめをする。	動を通して，「思考・判断」を評価する。 ・学習カードに示されているステップが，できているか助言する。 ・2人で互いに教え合って活動させる。 評 2人で互いに教え合って練習する活動を通して，「関心・意欲・態度」を評価する。 ・身に付けた技を組み合わせて発表させる。 ・発表する鉄棒に補助具や補助者を付けた易しい場を用意し，完全なできばえでなくてもできたことを認め，連続技の一つに加えて発表させる。 評 発表会を通して，「技能」を評価する。 ・感想の発表や学習カードによる自己評価などをさせる。
---	---